

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の送付について

このことについて、平成14年度病虫害発生予報第1号(8頁構成)を公表したので送付します。

平成14年度病虫害発生予報第1号(4月)
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【普通作物】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
麦 類	赤かび病	-	並

1 麦類の赤かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

4月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 赤かび病の発生は品質低下の大きな原因となるので、必ず防除を行う。穂が病原菌に感染しやすい時期は開花期であるため、防除適期は小麦で開花期(出穂後7~10日頃)、大麦で穂揃い期(出穂後1~4日)である。防除適期を過ぎると防除効果が低下するので、気象情報や生育状況に留意し防除適期を失しないように注意する。これらの時期に降雨や曇天が続く場合には、1週間後にもう一度防除を行う。

イ 農業総合試験場の作況調査によると、今後の気温が平年並に経過した場合、出穂期は小麦で平年より4~6日早く、大麦で平年より1~6日早いと予想されている(平成14年3月25日付け福岡県米麦大豆改善速報第13号を参照)。

ウ 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、粉剤では散布後5~6時間以内に降雨があると効果が減少するが、液剤では散布後に薬液が乾くとその後の降雨による効果の低下はない。

エ 防除薬剤は「平成14年度普通作物病虫害防除基準」を参照する。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	そうか病 ミカンハダニ	並 やや多い	並 やや多い
ナシ	黒星病	-	やや少ない
ブドウ	黒とう病	-	やや少ない
カキ	フジコナカイガラムシ	-	やや多い

発生現況及び発生予想の平年値は、前年までの7～8か年の平均値とした。

【果 樹】

1 カンキツのそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年（前8か年平均）・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬の調査の結果、旧葉の発病葉率は平均0.4%（平年：0.7%、前年：0.4%）であった。

イ 4月の気象予報では気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発芽直後～展葉期の防除を徹底する。本年は発芽時期が7～10日早まっているので、防除適期を逃さないように気をつける。

イ 罹病葉は伝染源になるので除去する。

ウ 防除薬剤は「平成14年度果樹病虫害防除基準」を参照する（以下の病虫害についても同様）。

2 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年（前7か年平均）・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬の調査の結果、寄生葉率は平均5.2%（平年：3.7%、前年：2.9%）であった。また、発生ほ場率は44.4%（平年：29.2%、前年：21.4%）と高かった。

イ 4月の気象予報では気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生の見られる園では、雌成虫の寄生葉率30～40%を目安に防除を行う。

イ 薬剤防除に当たっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

3 ブドウの黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 昨年が発生が少なかったため、越冬菌量は少ないと予想される。

イ 4月の気象予報では気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 頂芽の展葉2～3枚の時期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。
発芽時期が一週間以上早まっているので、防除適期を逃さないように注意する。

イ 罹病枝や前年取り残した巻きひげは極力除去する。

4 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生時期：平年・前年よりやや早い

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 前年の収穫期の寄生果率は、平均12.4%（平年：7.5%、前年：18.3%）で、越冬量は平年よりやや多いと予想される。

イ 4月の気象予報では気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 越冬幼虫が新梢に移動する4月中旬～下旬に防除を徹底する。

イ 前年発生が多かった園では、1回目の散布後7～10日後に更に防除する。

ウ 萌芽、展葉等が平年より1週間以上早まっているので、防除適期を逃さないように注意する。

【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	カンザワハダニ	少ない	やや少ない

【茶】

- 1 カンザワハダニ
- (1) 予報の内容
- ア 発生時期：平年よりやや早く、前年並
- イ 発生量：平年よりやや少なく、前年並
- (2) 予報の根拠
- ア 3月5半旬調査の結果、寄生葉率は平均0.2%（平年：5.2%、前年：0.9%）で、50葉当たり寄生虫数は平均0.1頭（平年：9.7頭、前年：0.5頭）であった。
- イ 気象予報では、4月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 発生が見られない茶園もあるので、発生状況をよく観察し、発生の少ない茶園は一番茶の新芽生育期の防除はなるべく控える。
- イ 防除を行う目安は寄生葉率2%以上で、生育が早くなっているため、摘採予定日と農薬安全使用基準に注意して行う。
- ウ 防除薬剤は「平成14年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照し、本虫の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだローテーション散布を行う。

【野 菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 やや少ない	並 並 やや少ない
冬春ナス	すすかび病 うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	並 並 やや少ない 並 少ない	並 並 やや少ない 並 少ない
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病 ミナミキイロアザミウマ	少ない 並 やや多い やや多い	少ない 並 やや多い やや多い
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病	やや少ない 並	やや少ない 並
野菜共通	コナジラミ類	少ない	少ない

【野 菜】

1 トマトの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病果率は平均0.6%（平年：0.6%、前年：1.1%）であった。しかし、一部のほ場では多発しているほ場もある。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 하우스内の換気を図り、多湿を避ける。

イ 被害果、被害茎葉や不用な花弁は早めに除去する。

ウ 本病原菌の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ・テ・ション散布を行う。

2 ナスのすすかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は平均27.0%（平年：26.3%、前年：11.7%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 本病は薬剤防除だけで病勢の進展を抑えるのは困難なので、換気を行い、多湿にならないよう管理する。ただし、急激な温度・湿度変化は避ける。

ウ 樹勢の低下で発病が助長されるので、着果量の調節や、適切な肥培管理を行う。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 本病原菌の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ・テ・ション散布を行う。

3 キュウリの褐斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病葉率は平均11.0%（平年：0.4%、前年：3.2%）であり、発生ほ場では発病程度が高い。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 近年、本病は増加傾向にあるが、一旦多発すると防除が困難であるとともに、次作でも発生することも多く、少発生のうちに防除を徹底する。

イ 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

ウ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

エ 本病原菌の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ・テ・ション散布を行う。

4 キュウリのミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、寄生葉率は平均16.7%（平年：9.9%、前年：11.6%）であり、発生程度はほ場により差がある。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難であるため、発生初期のうちに防除を徹底する。

イ 本虫への薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ・テ・ション散布を行う。

5 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発病株率は平均0.1%（平年：1.6%、前年：0.4%）であった。

イ 気象予報では、4月の平均気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面を随時観察し、早期発見に努める。

イ できるだけ不要な葉は葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

ウ 本病原菌の薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

4月の気象予報（1か月）

（予報期間3月23日～4月22日）

2002年3月22日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は多い可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	10	40	50
降水量	30	40	30
日照時間	20	30	50

- < 1週目の予報 > 3月23日～3月29日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 3月30日～4月5日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 4月6日～4月19日
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
13.3	121.9	170.5	11.2	12.4	14.3

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka.

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）